

日本労働年鑑 第56集 1986年版  
The Labour Year Book of Japan 1986

第二部 労働運動

XII 政党

3 日本社会党

3 大会・中央委員会

(1) 第六三回中央委員会

経過

八四年一〇月一七日、第六三回中央委員会が党本部で開かれ、石橋委員長のあいさつにつづいて田辺書記長が「結党四〇周年を前にしたわが党の課題」と題する報告をおこなった。田辺書記長はこのなかで、党勢拡大へ向けて党員拡大月間を延長することを明らかにするとともに、当面の政局について「次期総選挙は明年には想定しなくてはならない」と述べ、一二月召集の通常国会では政府・自民党と対決する姿勢を示した。会議のなかでは、左右両派の論争の対象になっている綱領的文書「道」の扱いなどについて、「結論を急ぐべきではない」との意見が大勢を占め、田辺書記長は「次期党大会ではとりあえず論議の手順を決めたい」との方針を示すにとどまった。また、次期総選挙や参院選に向けた選挙方針が「七〇歳定年制」を打ち出したことにたいしても、地方黨員らの考えも聞いたうえで次期党大会で結論を出すことになった。最後に、会議は路線問題に決着をつけるため、「綱領等に関する党基本問題検討委員会」を中執委に設置することなどを盛り込んだ書記長報告を了承して閉幕した。

委員長あいさつ

第六三回中央委員会であいさつに立った石橋委員長は、「ニュー社会党」の一年を総括するとともに今後とりくむべき課題について見解を明らかにした。石橋委員長はこのなかで、現実重視の新しい政治姿勢が党勢拡大の面では必ずしも実績をあげていないことを認め、これに関連して「公然たる派閥の会合が復活し、党外に向かってニュー社会党を批判するような古い体質丸出しの現象が見え始めている」と述べて派閥復活の動きを批判し、改めて挙党態勢の確立を訴えた。

日本労働年鑑 第56集 1986年版

発行 1985年12月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月15日公開開始

